

復習シート 第三学年 国語



組
番号
名前
模範解答

【適切な語句・敬語を選択する問題】レベル8～10.

1 アからエの文では、（ ）の中の1から4までのうち、どれが最も適切ですか。それぞれ一つずつ選びその番号に丸をつけなさい。

- ア みんなの注意を（1 歓喜 ② 喚起 3 寒気 4 換気）する。
 イ 災害に備えて手を（1 置く 2 合わす 3 かえす ④ 打つ）。
 ウ 作りたては ① たぶん 2 全然 3 まるで 4 決して（おいしいだろう。エ 先生が給食を（1 食べれる 2 いただく ③ 召し上がる 4 いただかれる）。

召し上がる・・・「飲む」「食べる」の尊敬語です。

【動詞の活用形・品詞の分類・助詞の意味の判別に関する問題】レベル8～10.

2 次の各問いに答えなさい。

(1) 次の傍線部の動詞で、他と活用形の異なるものを選び、その記号を書きなさい。
 ア 夕食前に勉強しよう。 イ 自分の考えを曲げない。
 ウ 絵本を読ませる。 エ 違いが分かった。

ア・イ・ウは全て未然形。未然形は「ない」「よう」「う」などに続く。まだ起こっていないことを表す形です。

(2) 次の傍線部で、他と品詞が異なるものを選び、その記号を書きなさい。

- ア そこに意外性はない。 イ 自動車には乗らない。
 ウ 昨日ほど寒くない。 エ 棚には何も無い。

「ない」を「ぬ」に置き換えて考えましょう。置き換えられる「ない」は助動詞、その他は形容詞です。

(3) 次の傍線部で、他と意味・用法が異なるものを選び、その記号を書きなさい。

- ア 部屋の片付けをする。 イ 大雪の降った地方に行く。
 ウ みんなの望んだ結果が出る。 エ 星の輝く夜空を見上げる。

「の」を「が」に置き換えて考えましょう。置き換えられる「の」は格助詞です。

【古文の内容を読み取り、歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す問題】レベル8～10.

3 次の文章を読み、あとの問いに答えなさい。

二十五日、菊川を出でて、今日は大井川といふ川を渡る。水いとあせて、聞きしには違ひて、わづらひなし。河原幾里とかや、いとほるかなり。水の出たらむ面影、おしはからる。
（阿仏尼『十六夜日記』）

(1) 傍線部①「いふ」②「わづらひ」③「出たらむ」を現代仮名遣いに直しなさい。

- ① いう ② わづらい ③ 出たらん

(2) 傍線部④「おしはからる」の意味を次から選び、その記号を書きなさい。

- ア 計測できる イ 思い出せる ウ 想像される エ 言うことができる
- ウ ウ

(1) ② づ(ず) ひ(い)。2か所直す必要があります。づ(ず) になる例として「はづかし」↓「はずかし」などがあります。